

平成22年5月22日現在

研究種目：特定領域研究  
 研究期間：2005～2009  
 課題番号：17083038  
 研究課題名（和文）浙江・江蘇地域の道教・民俗信仰に関する廟宇・祭神・儀礼調査  
 研究課題名（英文）Studies about Shrines and Temples, God and Rituals of Daoism and Popular Religion in Zhejiang and Jiangsu Region  
 研究代表者  
 二階堂 善弘 (NIKAIDO YOSHIHIRO)  
 関西大学・文学部・教授  
 研究者番号：70292258

## 研究成果の概要（和文）：

浙江・江蘇一帯の道教や民間信仰における廟・祭神・儀礼の実態について調査を行った。またこれらが華南一帯や、日本などにも影響を及ぼしている状況についても調査した。特に、日本の禅宗文化に与えた影響に注意して検討を行った。

## 研究成果の概要（英文）：

We researched on an investigation into Shrines and Temples, God and Rituals of Daoism and Popular Religion in Zhejiang and Jiangsu Region. Also researched their influence on all over South China and Japan. Particularly researched the influence on Zen Buddhism culture of Japan.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	6,200,000	0	6,200,000
2006年度	6,200,000	0	6,200,000
2007年度	6,200,000	0	6,200,000
2008年度	6,200,000	0	6,200,000
2009年度	6,200,000	0	6,200,000
総計	31,000,000	0	31,000,000

## 研究分野：宗教学

## 科研費の分科・細目：

キーワード：道教、民間信仰、民間宗教、渡来神、廟・祭り、浙江・江蘇、福建・広東、琉球・沖縄

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 中国の宗教文化、特に道教・民間信仰及び民俗信仰については、大きな地域差が存在する。寧波や杭州が含まれる浙江、蘇州を

含む江蘇一帯と、そのすぐ南に位置する福建や広東では、廟宇、祭神、儀礼及びそれを司る宗教職能者も大きく異なっている。これは互いの文化の方言の差異を考えれば当然のことなのであるが、これまではそれほど注意

されてこなかった。それは仏教や道教など、伝統宗教の側では地域差が少ないということもある。しかし、民俗信仰においてはそうではない。こういったことについては、これまで宗教研究の場にあっても看過されがちであった。

(2) 寧波をはじめとする浙江地域、また江蘇地域の民間信仰が、仏教を通じて日本に影響を与えていることは、これまであまり注意されてこなかった。曹洞宗や臨済宗の寺院を中心に、仏像や神像が残されており、美術史の立場からは研究がある。しかしこれらの神が中国の民間信仰においてどのような位置づけにあるのかは、これまでの研究では不明確であった。

## 2. 研究の目的

(1) 中国の宗教文化、特に道教・民間信仰及び民俗信仰については、大きな地域差が存在する。本研究は、山東・福建・広東などの沿海の宗教文化を意識しつつも、浙江・江蘇といった江南地域の宗教文化の実情について、廟・祭神・儀礼の歴史的な変遷を中心として、現在の信仰の状況も含めて調査を行う。

(2) 浙江・江蘇地域の信仰が、日本の伝統文化に影響を与えた点について考察を加える。特に、五山文化における民間信仰の影響について探る。

## 3. 研究の方法

(1) 当研究班においては、当初は寧波を中心とした浙江・江蘇一帯の寺廟や祭祀について調査する予定であったが、その地域や範囲は徐々に拡大し、実際には調査地域は福建・台湾・広東・山東、さらにはベトナム・タイにまで及ぶものとなった。これは対象となった廟や神信仰の及ぶ範囲が想定以上に広範囲に及んでおり、沿岸地域一帯を調査しなければならないことが判明したためである。

(2) また寧波プロジェクト全体の目的が、日本伝統文化との関連を重視するというものであったため、宋代に盛んであった信仰の日本への伝来についての研究も重点的に行われることとなった。

## 4. 研究成果

(1) 研究代表者である二階堂善弘の調査対

象は、日本の禅宗寺院で祀られている伽藍神の調査を中心とするものになっていった。鎌倉から室町期において、中国より伽藍神が伝来し、いまでも建長寺・寿福寺・相国寺・東福寺・建仁寺・永平寺・泉涌寺などにおいてその像が祭祀されている。その神々とは、招宝七郎大権・祠山張大帝・感応使者・掌簿判官などである。これらの神々は、道教或いは当時の民間信仰の神が禅宗に取り入れられたもので、浙江や江蘇一帯の廟で祭祀されていたものであった。ところが、現在の中国においては、これらの神はほとんど信仰が残っていない。幾つかの神については文献資料に僅かに記録が見られるものの、その痕跡はむしろ日本にのみ残されているのである。例えば招宝七郎神であるが、その像は片手を挙げて遠望する形に作られる。日本の曹洞宗の寺院に行けば必ずと言ってよいほどその特異な像が見られる。招宝七郎神はまた大権修利菩薩とも呼ばれる。元來招宝七郎は海神であり、また阿育王寺の守護神であったものである。実は『水滸伝』や『西遊記雜劇』にはその名が見えており、明代までは非常に有名な神であったことが推察される。実は現在でも阿育王寺には舍利殿に祀られているが、何の神であるかはほとんど忘れ去られている。こういった神々を調査することにより、当時の信仰の姿を復元することが可能となるのである。

(2) 研究代表者の二階堂はこの他に、真武大帝が日本に伝来して妙見菩薩信仰に習合したこと、また江戸初期に黄檗宗が伝わったときにやはり伽藍神として華光大帝が輸入されて華光菩薩となったことなどについても、日本の寺院それに中国の寺廟を調査して研究を行った。

(3) 研究分担者の山下一夫の研究活動は、江南地域における信仰と、皮影戲などの演劇・文芸活動が密接な関係を持つことを現地調査によって考究するものである。特に江南の杭嘉湖地域（杭州・嘉興・湖州）にある含山蚕山殿などの、蚕神信仰が盛んな寺廟について詳細な分析を行った。さらに同地域で行われる海寧皮影戲の蚕戲に見られる蚕神を取りあげ、同地域の蚕神が多岐にわたっているのは、移民による伝統の差がその原因にあることを推定した。

(4) 研究分担者の千田大介の研究活動は、江南地域の皮影戲の芸人や劇団について、現地調査に基づき社会との関連について分析を行う。旧時の海寧皮影戲は、養蚕農家の儀礼、農民の冠婚葬祭、さらには農村の共同体維持にも組み込まれていたことを指摘した。

(5) 研究分担者の志賀市子の研究活動は、広東を中心とした諸地域の民間宗教及び宗教儀礼であり、その範囲は近年、タイ・ベトナムなどの華人が住む諸地域にまで拡大している。死者儀礼の中でも、特に無縁仏の祭祀について注目している。例えば、海陸豊地域の聖人公媽の祭祀は、もともと鬼である無祀枯骨を神として崇めるものであったが、善堂のシステムの普及や政府の宗教政策、殯葬改革の徹底などといった要因により、その顕聖の機会が減り、その鬼王としての機能は、宋大峰や地獄菩薩といった高位の神格にとって代わられつつあることを分析した。

(6) 研究分担者の濱島敦俊の研究活動は、広く江南地域における民間信仰を対象とするものであり、地域社会の発展と廟の関係に注目する。浙江や江蘇における金総管・周孝子の信仰、さらには城隍神の信仰について詳細に現地調査を行い、分析した。特に城隍神信仰について注意し、東アジア一帯に広くその影響が見られることを示した。

(7) 研究分担者の吾妻重二の研究活動は、祖先祭祀を中心とした調査が中心であるが、近年その調査対象の範囲は中国・日本のみならず、韓国やベトナムにまで及んでいる。東アジア全体における祖先祭祀といった形でのトータルな理解を考究するものである。特に『朱子家礼』の影響がアジアの広汎な範囲に及んでいることを指摘した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計10件)

① 二階堂善弘、「鎌倉五山の伽藍神像について—太白龍王を中心として—」、松浦章編『東アジアにおける文化情報の発信と受容』(関西大学アジア文化交流研究叢刊第4輯・雄松堂出版)、2010年、163~170、査読無し

② 吾妻重二、「江戸初期における学塾の発展と中国・朝鮮—藤原惺窩、姜沆、松永尺五、堀杏庵、林羅山、林鷺峰らをめぐって—」、『東アジア文化交渉研究』(関西大学ICIS)第2号、2009年、47~66、査読無し

③ 山下一夫、「海寧皮影戯『三角金磚』と蚕花五聖信仰」、『中国都市芸能研究会』(中国都市芸能研究会)第8輯、2009年、89~107、査読無し

④ 千田大介、「海寧皮影戯形成考」、『中国都

市芸能研究会』(中国都市芸能研究会)第8輯、2009年、37~88、査読無し

⑤ 二階堂善弘、「長崎唐寺の媽祖堂と祭神について—沿海「周縁」地域における信仰の伝播—」、『東アジア文化交渉研究』(関西大学ICIS)第2号、2009年、99~108、査読無し

⑥ 吾妻重二、「池田光政と儒教喪祭儀礼」、『東アジア文化交渉研究』(関西大学ICIS)創刊号、2008年、79~104、査読無し

⑦ 二階堂善弘、「民間信仰における神形象の変化について—華光大帝と招宝七郎を例に—」、『東アジア文化交渉研究』(関西大学ICIS)創刊号、2008年、179~186、査読無し

⑧ 濱島敦俊、「東亜諸国的城隍信仰」、『城隍信仰』(シンガポール韭菜芭城隍廟出版)、2008年、13~48、査読無し

⑨ 二階堂善弘、「海神・伽藍神としての招宝七郎大権修利」、『白山中国学』(東洋大学中国学会)通巻第13号、2007年、43~54、査読無し

⑩ 二階堂善弘、「祠山張大帝考—伽藍神としての張大帝—」、『関西大学中国文学会紀要』第28号、2007年、155~167、査読無し

[学会発表] (計12件)

① 山下一夫、「浙江省東部における蚕花廟会と蚕神信仰」、中国都市芸能研究会2009年度冬季大会(静岡大学静岡キャンパス)、2009年12月13日

② 千田大介、「海寧皮影戯声腔考」、中国都市芸能研究会2009年度冬季大会(静岡大学静岡キャンパス)、2009年12月13日

③ 濱島敦俊、「東亜城隍雑考」、東方学会第59回全国会員総会(日本教育会館)、2009年11月6日

④ 二階堂善弘、「日本妙見信仰與真武崇拜 The Cult of the Wondrous Manifestation and the Perfected Warrior Cult in Japan」、5th International Daoist Studies Conference (第5回国際道教会議・中国湖北武当山)、2009年6月20日

⑤ 志賀市子、「嶺南先天道の信徒と思想—清遠飛霞洞を中心に—」、仏光大学主催「民間儒教と救世団体」国際シンポジウム、宜蘭県礁溪郷、2009年6月9日

⑥二階堂善弘、「道家・道教・民間信仰と理想社会（도가・도교・민간신앙과 이상사회）」「東アジアの理想社会」、韓国・智異山園文化研究院学術研討会 2009（韓国順天大学校）、2009年5月29日

⑦二階堂善弘、「華光大帝信仰の変容—杭州と馬祖を例に—」、関西大学CSAC第12回研究集会、2008年12月6日

⑧山下一夫、「江南の蚕神信仰と海寧皮影戯」、関西大学CSAC第12回研究集会、2008年12月6日

⑨志賀市子、「粵東地域における無縁の死者祭祀の諸相」、関西大学CSAC第12回研究集会、2008年12月6日

⑩二階堂善弘、「寧波の海神・招宝七郎の日本への伝来」、2008 にんぷろワークショップ in東京（東京大学）、2008年7月27日

⑪二階堂善弘、「宋代の航海神招宝七郎神と平戸七郎権現」、現地調査部門国際シンポジウム「海をむすぶ祈り—東アジア海域交流と信仰—」（長崎歴史文化博物館）、2007年2月11日

⑫二階堂善弘、「中国の民衆における信仰と冥界観」、景觀班・民俗信仰班共催研究集会（岩手大学）、2006年7月30日

〔図書〕（計2件）

①二階堂善弘、吾妻重二、千田大介、山下一夫、志賀市子、濱島敦俊、山田明広、『浙江・江蘇地域の道教・民俗信仰に関する廟宇・祭神・儀礼調査研究成果報告書（平成17年度～平成21年度文部科学省特定領域研究・東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成・寧波プロジェクト・現地調査部門B-11』、313頁、2010年3月

②二階堂善弘、『明清期における武神と神仙の発展』、関西大学出版部、207頁、2009年2月

〔その他〕

ホームページ等

<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~nikaido/ninpro00.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

二階堂善弘 (NIKAIDO YOSHIHIRO)  
関西大学・文学部・教授  
研究者番号：70292258

### (2) 研究分担者

吾妻重二 (AZUMA JUJI)  
関西大学・文学部・教授  
研究者番号：20192982

千田大介 (CHIDA DAISUKE)  
慶応大学・経済学部・准教授  
研究者番号：70298107

山下一夫 (YAMASHITA KAZUO)  
神田外語大学・外国語学部・専任講師  
研究者番号：20383383

志賀市子 (SHIGA ICHIKO)  
茨城キリスト教大学・文学部・教授  
研究者番号：20295629

濱島敦俊 (HAMASHIMA ATSUTOSHI)  
東洋文庫・研究員  
研究者番号：40012976